

報道関係者 各位

2025 年 9 月 18 日

公開講演会

「アジア・交錯する信仰と民族——共在のありかたを探る」

2025 年 10 月 31 日（金）日経ホール（東京）にて開催！

国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園10-1）では、みんぱく公開講演会「アジア・交錯する信仰と民族——共在のありかたを探る」を2025年10月31日（金）に日経ホール（東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル3F）にて開催します。

【趣旨】

グローバル化が急速に進展する現代社会では、ヒト・モノ・カネ・情報の越境が活発化する中、地域を越えた社会的、経済的な相互依存が高まり、多様な出自を持った人びとが出会い、交流するようになった。

しかしその一方で、外国人や移民などに対する排外主義が高まるなど、世界各地で軋轢や分断も深刻化してきた。こうした軋轢や分断を引き起こす要因として、民族や宗教の違いが挙げられることがある。ただし、宗教的な実践はエスニック・アイデンティティと結びついて排他的に働くこともあれば、時に民族を越えて他者を包摂していくこともある。

本講演会では、中国におけるイスラームと台湾における民間信仰という性質の異なる宗教に焦点を当て、東アジアにおいて宗教と民族がどのように地域横断的に関係してきたのか、そこで民族や宗教の異なる多様な人びとがいかに共にあることができるのかを考えてみたい。



【登壇者】**[趣旨説明・講演 1] 民族と宗教のあいを生きる 中国におけるムスリム・回族にみる共在のありかた**

奈良 雅史（国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・准教授）

中国には回族と呼ばれるムスリムが暮らしている。彼らは7世紀以降に中国にやってきた外来ムスリムの末裔とされる。回族と他民族との関係から、民族と宗教の関係を考えたい。

[講演 2] 霊達とポスト・コロニアリズム 現代台湾で神になった日本人、亡霊になった日本人、そして**それを取り巻く人々**

藤野 陽平（慶應義塾大学・文学部・教授）

ポストコロニアルな状況下、日本統治期の台湾で死んだ日本人の霊たちが、神になったり亡霊になったりする現象を、戦後台湾社会の文脈に位置付けて考察する。

[コメント]

島村 一平（国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授）

[パネルディスカッション]

藤野 陽平×島村 一平×奈良 雅史

【公開講演会とは】

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京において実施しています。

【プログラム】

17:30	開 場	
18:30 - 18:40	開会挨拶	武類 祥子（日本経済新聞社 大阪本社 編集局長）
	挨 拶	關 雄二（国立民族学博物館長）
18:40 - 19:15	趣旨説明	奈良 雅史（国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・准教授）
	講 演 1	「民族と宗教のあわいを生きる 中国におけるムスリム・回族にみる共在のありかた」
19:15 - 19:50	講 演 2	藤野 陽平（慶應義塾大学・文学部・教授）
		「霊達とポスト・コロニアリズム 現代台湾で神になった日本人、亡霊になった日本人、そしてそれを取り巻く人々」
19:50 - 20:00	休 憩	
20:00 - 20:40	コメント	島村 一平（国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授）
	パネル ディスカッション	藤野 陽平×島村 一平×奈良 雅史
20:40	終 了	

【登壇者プロフィール】

奈良 雅史（国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・准教授）
専門は文化人類学。中国、台湾における中国ムスリムを対象に、宗教、エスニシティ、モビリティを主なテーマとした研究を行っている。著書に『現代中国の〈イスラーム運動〉—生きにくさを生きる回族の民族誌』（2016年、風響社）、共編著に『モノとメディアの人類学』（2021年、ナカニシヤ出版）など。



藤野 陽平（慶應義塾大学・文学部・教授）
専門は文化人類学。近年は台湾の民間信仰における国家の追悼からこぼれた霊の扱いについて関心を寄せ、台湾の日本神を題材としてドキュメンタリー映画『軍服を着たカミサマ』（遠藤協氏との共作）も作成している。日本神を扱った近著に「台湾の日本神を訪ねる日本人と台湾社会—観光化がもたらす信仰実践の変容」東・福井・奈良編『脱観光化の人類学—かわりゆく観光と社会のゆくえ』（2025年、ミネルヴァ書房）などがある。



島村 一平（国立民族学博物館・人類文明誌研究部・教授）
専門は文化人類学・モンゴル研究。主な研究テーマはシャーマニズムとヒップホップ。著書に『増殖するシャーマン』（2011年、春風社）、『ヒップホップ・モンゴリア』（2021年、青土社）『憑依と抵抗』（2022年、晶文社）、編著に『辺境のラッパーたち』（2024年、青土社）など。2023年モンゴル国北極星勲章叙勲、2024年フランス高等研究実習院（EPHE）招聘教授。

【開催概要】

講演名	公開講演会「アジア・交錯する信仰と民族——共在のありかたを探る」
日時	2025年10月31日(金) 18:30～20:40 (開場17:30)
会場	日経ホール (東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル3F)
定員	600名 (事前申込み制／先着順／無料) ※手話通訳あり
ライブ中継	本講演は会場内のほか、WEBライブ中継 (事前申込み制/定員なし/無料) でも参加いただけます。
主催	国立民族学博物館、日本経済新聞社

【申込み方法】
会場へ参加ご希望の場合もライブ中継参加ご希望の場合も、下記公式サイト内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。

https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/62796

受付期間：2025年9月19日(金)受付開始予定

講演会 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 研究協力課
お問合せ先 Tel:06-6878-8209 Mail: minpakukoenkai@minpaku.ac.jp

[お問合せ] 国立民族学博物館 総務課 広報係
Tel:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press